

帰国報告

～ 中華人民共和国・香港日本人学校中学部 ～

前香港日本人学校中学部 教諭

小樽市立菁園中学校 教諭 山崎 徹也



1 . はじめに

平成16年度から18年度までの3年間、在外教育施設派遣教員として香港日本人学校中学部に勤務した。そびえ立つ高層ビル群。その間を縫うように広がる露天。ネオンに飾られた看板すれすれに走る2階建てバスやトラム。雑踏の中で大声で会話をしているエネルギッシュな街、香港。気温は30を超え、湿度90%を超えることも多い亜熱帯性の気候。まさしくそこは東南アジアである。

昼間はどこからこれだけの人が現れたのか、そして夜にはどこに帰るのかと疑いたくなるほどの多くの人々がひしめき、皆好き勝手に行きたい方向に向かって歩いている。慣れないと人とぶつかり進もうにも進めない状態に陥る街。日本人学校中学部はそんな街の喧噪から外れた山の中腹に、チャイニーズインタースクール、イギリス系の小学校と隣り合わせで建っている。今回は、香港日本人学校および、香港の様子、生活について紹介したいと思う。

2 . 現地の教育環境

今年6月、日本でもニュースで取り上げられたように、香港は1997年、イギリスより中国に返還され10年が経過した。イギリス統治下にあった影響で、香港では英語に力を入れており、英語を話せることが一つのステータスとなっている。香港の現地校においては、広東語で授業を行う「中文中学」と、英語で授業を行う「英文中学」があり、保護者は「英文中学」に我が子を入学させることを願っている。「アマさん」と呼ばれる、フィリピン系、マレーシア系の女性の家政婦を雇い、家事に従事させる傍ら、子どもたちの小さいうちから英語に触れさせている家庭も多い。香港では、日本と同じ小学校卒業時に、SSPA(中学学位分配弁法)と呼ばれる試験を経て通学する中学校を割られる。それにより、学校間格差が生まれる。中学卒業時にも試験があり、高校が決められ、大学への進学率は約20%である。これらの厳しい受験戦争を勝ち抜くために、保護者は子どもを塾へ通わせ、勉強に専念させる。日本人学校と交流を持たせていただいた比較的ランクの高いある現地中学校の先生の説明では、50%以上の小学生が塾へ通い、帰宅後4時間以上の勉強をするのが香港では普通だそうだ。保護者やアマさんが学校へ通う子どものために鞆を持ち、通学バスを待っているという一見過保護とも取れる風景は毎朝のものとなっている。それだけ親の期待も大きいことがわかる。子ども達は眠い目をして通学バスに乗り込んでいく。

中学校卒業後の高校、大学の試験も日本のそれとは比べようもないほどであるが、日本と大きく違う点は、大学も、そして大学卒業後の就

職も、彼らは香港に留まることに固執してはいないということだろう。香港を離れ、海外にそれを求める人がとても多いというのが現状のようだ。普段の生活の中で使う広東語、そして英語が話せるのは当たり前。そして在学中に第3言語を習得する努力を怠らない彼らは、香港にとどまらず絶えず世界を視野に入れている。

3 . 香港日本人学校



香港にはおよそ2万4千人の日本人が住んでいると言われている。日本国政府の海外子女教育施設に基づき、香港に在住する邦人の総意によって、香港日本人学校は昭和41年に正式許可を受け設置された私立学校である。現在、小学部香港校（生徒数約630人）、小学部大埔校（生徒数約560人）の2つの小学校と私の勤務していた中学部（生徒数約350人）の3つの学校が存在する。土地の狭い香港に建つ建物は高層ビルが多いのに漏れず、中学部は8階建て（山の傾斜に合わせて作られているため、玄関のある階は5階となり、6階から8階が普通教室として使用している）となっている。バスケットコートがようやく1面とれる体育館、ミニサッカーができるスペースのカバード、バスケットコートの半面ほどの広さのオープンが運動のできるスペースとなっており、グラウンドはない。10月に行われる体育大会は現地の陸上競技場を借りて行われ、それに向けての練

習は、体育館で行われる。女子全員で行われるダンス、男子全員で行われる組み体操は当然、この狭い体育館で全体練習はできず、体育の授業の中で各クラス単位で練習し、体育大会の直前に1日もしくは2日、陸上競技場をかりての練習でしか全体を合わせることはできない。その練習ですら、土地の狭く陸上競技場の数も決して多くはない香港であるためにその利用希望者が多いことから、大会当日とは別の競技場での練習が割り当てられたりと大会運営には頭に痛い状況になることもしばしばである。

また、6月に行われる合唱発表会は、保護者の方々の参観が多く、体育館には収容しきれないので、現地の大学の立派なホールを借りて実施している（それでもチケットが足りなくなるのだが...）。

学校施設の面以外での日本人学校の特徴には、生徒の編入・退学（一般の転入・転出だが私立なのでこのように言う）の生徒がとても多いことだろうか。毎学期の終業式には、全校で10名以上の生徒が退学し、始業式にはほとんど同数の生徒が編入してくる。1年で学年1クラス分の生徒の出入りがあることも珍しいことではない。生徒も教師も日本全国から来ておりそれぞれの地域の言葉が聞こえる。生徒の家庭の内訳は、日本にある大手企業が香港に進出し日本から香港に派遣されている家庭の子どもが圧倒的に多い。他に、香港で会社を立ち上げた家庭や、外交官、香港の方と結婚し香港で生活をしている家庭の子と続く。日本を離れ、香港以外の国々での生活を経験し、そして現在は香港にいるという生徒も少なくはない。彼らの多くは、英会話能力を既に身につけており、他の言語を話すことができる者もいる。日本人でありながら、日本で生活をしたことがない生徒や物心がつく前に日本を離れてしまった生徒も多い。これらの生徒は日本をこの日本人学校でしか感じ取ることができない。香港が初めて海外での生活となる生徒は、これらの生徒たちの中に入ると初めは、カルチャーショックを受け

るようであるが、次第に慣れ学校生活にとけ込んでいくことになる。

教材は、現地スタッフにお願いすると、ほとんどが手に入るが、理科では日本とは生態系に違いがあるため、手に入らないものがある。また、湿度の違いにより技術で注文した木材は、あつという間に木材が変形してしまうなどの現象が見られた。また、香港は大ざっぱな性格の人が多いためか、寸法を伴う物（例えば服や校舎に備え付けるための備品など）を注文すると、注文通りにできあがってくることはまずない。生徒たちもその辺はよくわかっていて、逆に楽しみながら学習をしている。

4 . 日本人学校中学部の実践

授業は日本の学習指導要領にのっとって行われているが、総合的な学習の時間ではネイティブの英会話スタッフによる英語のみを話す英会話の時間が週に2時間、能力別に行われている。他に総合的な学習の時間としては、現地校との交流が活発に行われており、日本の伝統文化を教えたり、香港の文化を教わったりと交流が行われている。その時は、広東語・日本語・英語が使われることになり、インターナショナルな雰囲気を楽しむこととなる。また、1年生では2泊3日でのマカオへの宿泊研修、2年生では4泊5日での中国北京への修学旅行が実施され、それぞれの行き先にある学校との交流も行われており、本来の総合的な学習の時間の取り組みと連動させて活動が活発に行われている。

生徒たちは、日本を調べ、そして海外と比較することによって、広い視野を身につけることとなるほか、遠く離れた日本を懐かしむ心も芽生えるようである。これらの活動を通し、海外にいるという利点を生かし、生徒たちの国際的な視野を広げる学習を実践している。

また、インターナショナルな面ばかりではなく、日本の文化にも触れる試みがなされている。

国語の授業では、年末から百人一首の学習を取り入れており、3学期が始まってまもなく、学年別の百人一首大会が催される。生徒たちは真剣そのもので、畳の上の札に向かっている。50首を詠み終わった後、枚数によりランク別に行われるにも関わらず、70枚もの札を取る生徒も見られる。



百人一首大会の様子

5 . 生徒の様子

一般的に日本人学校の生徒の学習への関心は高い。日本を離れているため日本語に触れる機会が少ないためか、国語の力は若干低いものの、他の教科は日本のそれと比較して能力は高い。

学校が終わった後の部活動については、狭い香港での運動不足を補うということを目的として行っている。日本のように中体連などの大会があるわけではなく、試合相手もなかなか見つからないのでさほど盛んではない。それでも、いくつかの部活動では現地校やインターナショナルスクールとの練習試合を年に数回行っている。

係活動にも積極的に取り組む生徒が多く、役員選挙では多くの生徒が立候補している。それぞれしっかりとした公約を掲げ、朝の通学バスが到着する時間に合わせて校門で選挙活動を行っている。当選した生徒たちの手によって、昼休みの時間を利用して、七夕祭りやクリスマスショーなど、ユニークな企画・運営がなされて

いる。他に、各学年の取り組みのまとめを発表する生徒朝会の運営や領事館訪問、香港の行事への参加など積極的な活動が見られる。

香港は治安がよく、下校後に直接塾に通っている生徒も多い。日本の塾の大手が数校香港に進出しており、夜10時過ぎに帰宅する生徒もいる。学期末テストの直前には、塾は11時までやっているようである。保護者の学校教育への期待はとても大きく、参観日の保護者の参加は90%を超える。授業後の懇談会はもちろんのこと、保護者が企画し年に数回の学年飲茶会（日本でいう茶話会だが、さすが香港、飲茶を食べながらということになる。学年での会になるので相当の人数になるようだが、平日開催のため、教師は呼ばれない）も催されている。

生徒の通学方法はPTAのバス利用者が業者に委託している通学バスを使っている生徒が多いが、前夜、遅くまで勉強していたからなのかバスの中で寝てしまい、校門前に到着してやっと目覚める生徒が多く、眠そうな目をこすりながら迎えに出ている先生方に挨拶をする様子が毎日のスタートとなっている。

生徒の卒業後の進路に関しては、日本全国から生徒が集まっているので、高校進学に関する業務は困難を極める。生徒が受験したい都道府県から派遣されている教師が日本人学校にいとある程度状況がわかり、手続きもスムーズであるが、派遣された教師のいない都道府県の入試を受ける生徒がいる場合は、学校全体で教師を割り振りし、その教師が各都道府県の教育委員会と連絡をとりながら入試業務に当たることとなる。香港日本人学校中学部の生徒の進学先は日本全国の国・公立高校をはじめ、私立高校、海外に進出している高校、インターナショナルスクール等、幅が広く、また生徒一人で10校近く受験する者もあり、進路指導担当者と3学年の担任は大変忙しい思いをする。

卒業後、生徒たちは日本全国のみならず香港にとどまる生徒、海外に移る生徒もいるため、同窓会などを開いても全員が集まることは不可

能に近いと、卒業式は別れを意味することとなり、感慨深いものとなる。



日本人学校中学部からの風景

6. 総合的な学習の時間の取り組みの中から

総合的な学習の時間では（先に触れた英会話を除いて）、5月の3学年合同の導入の時間から、それぞれの学年でテーマをたて、11月までの間で行われる。学年行事として、既に紹介した1年でのマカオへの宿泊研修、2年での中国北京への修学旅行があり、それぞれ現地校との交流があることから、その交流と関連づけて調査・研究をすることが多い。

3年間の勤務のうち、2年目・3年目は私は1年生、2年生と持ち上がり生徒と共に学習してきたが、私は社会科が専科であることから、総合的な学習の時間では社会科的な見地から、日本と香港を比較・検討するグループを担当した。その中に、日本と香港そして中国の歴史観の違いについて調査したグループがあったのでご紹介したい。

このグループは1年生の時とメンバーがほとんど同じであった。日本の政治に抗議する北京・上海での抗議デモをきっかけに規模は小さかったものの香港でもデモが展開された。その直後に1年生でのマカオへの宿泊研修が予定されていたため実施が危ぶまれた経験から1年では「反日デモについて」テーマを設定した。2年生では1年生でのデータをもとにし、2年生で行くことになる中国北京と香港、そして日本では、歴史認識にどのように違いがあるのかを検

証しようと考えた。



香港での反日デモと

それを伝える現地系ニュース

《香港での街頭アンケート項目》

【1年でのアンケート 回答23名】

あなたの年齢・性別を教えてください。

あなたは反日デモに参加しましたか？

(回答) 参加2名 不参加21名

香港での反日デモの原因は何にあると思いますか？(複数回答可)

- | | |
|---------------|-----|
| A. 靖国神社問題 | 13名 |
| B. 中国と日本の領土問題 | 14名 |
| C. 経済問題 | 4名 |
| D. 日本の教科書問題 | 26名 |
| E. 日中戦争 | 15名 |
| F. その他 | |

日本が中国を攻撃していること
反日デモについてあなたの意見を聞かせてください。

- | | |
|----------------|----|
| A. 賛成 | 7名 |
| B. 反対 | 4名 |
| C. 賛成だがデモは必要ない | 9名 |
| D. その他 | 1名 |

日本人への印象を教えてください。

- | | |
|-------|-----------------|
| 親日的回答 | 礼儀正しい・優しい・正直・勤勉 |
| 反日的回答 | 失礼・ずる賢い・好戦的 |

あなたは日本について両親や学校の先生からどのようなことを学びましたか？

(複数回答可)

- | | |
|-----------------|--------|
| A. 日中戦争について | 14名 |
| B. 靖国問題について | 5名 |
| C. 日中間の領土問題について | 6名 |
| D. 日本による中国への援助 | 6名 |
| E. 日本文化 | 14名 |
| F. 日本製品 | 14名 |
| G. その他 | TVについて |

【2年でのアンケート 回答40名】

あなたの年齢を教えてください。

あなたの性別を教えてください。

職業を教えてください。

日本の歴史教科書問題を知っていますか？

- | | |
|------------|-----|
| (回答) 知っている | 20名 |
| 知らない | 18名 |

靖国神社を知っていますか？

- | | |
|------------|-----|
| (回答) 知っている | 7名 |
| 知らない | 32名 |

- A 尖閣諸島問題を知っていますか？

- | | |
|------------|-----|
| (回答) 知っている | 20名 |
| 知らない | 18名 |

- B 尖閣諸島はこの国の領土だと思いますか？

- | | | | |
|---------|-----|----|----|
| (回答) 中国 | 18名 | 日本 | 3名 |
| その他 | 5名 | | |

これからの日本と中国の関係はどうあるべきですか？

- (回答)・東南アジアの安定を維持していくために共に協力していかなければならない。

- ・日中共に相互の利益のためにも積極的な態度で次世代の子供に歴史の勉強をさせるべき。
- ・良好な関係にするべき。

2年生の総合的な学習が始まってこのグルー

ブはまず、日本と中国の間に起きた歴史について学習し、一般的な知識を身につけた後、資料を集め、検討し、調査したい内容をまとめ、英語でアンケート用紙を作成し、香港の一番の繁華街に行き4時間にわたり街頭アンケートを実施した。香港出身、中国出身の人々及び西洋人、およそ40人の人々に協力してもらい、調査した内容を自分たちで分析し、修学旅行で訪問する北京の外交学院大学の大学生に事前に質問事項を送付した。アンケートはあくまで香港で取ったものであり、中国本土ではまた違った意見が聞けると思ったからである。

歴史教科書の話では、大学教授も参加しての活発な意見交換となった。日本人学校で社会科学を教えている立場の私も加わり、お互いの国の歴史の授業の内容、そして歴史認識の違いを改めて感じるものとなった。

香港ではなく中国本土では日中戦争に関する学習内容はかなり力を入れて教えているのが現実のようである。特に、南京大虐殺については、日本の歴史教科書ではどのような取り扱いをしているのか、また、盧溝橋の近くにある抗日博物館を見学したことはあるか。あると答えたところ、それについてどう感じたかなど、いろいろと聞かれることとなった。

逆に広島にある広島平和記念資料館の話をしたところ、歴史認識の違いはあっても、過去の過ちを二度と繰り返してはいけない。そのために、何をすべきかということで、前向きな話し合いへと変わっていくことができた。

生徒たちにとっても熱のこもった内容の濃い交流となり、満足できた。香港に戻ってからの総合的な学習の時間では、街頭アンケート、及び外交学院大との交流内容をまとめ、発表会ではすばらしい発表を行うことができた。発表を聞いて頂いた保護者の方々からも高い評価をいただいた。



アンケート用紙と北京外交学院大学との交流の様子

7. 香港における日本

香港は第2次世界大戦の際、日本に支配された時期があった。歴史博物館には、歴史別に幾つかのブースにわけられているが、第二次世界大戦の頃の日本の統治の様子を扱ったブースもある。ある島には、日本軍が船を隠していたと伝えられる洞窟なども見られる。香港の現地系中学校で使用している歴史教科書における日本に関する記述内容を調べたところ、次のようなことがわかった。

中一では中国の南北朝時代まで、中二では唐の時代までの学習内容のため、日本に関する記述はほとんどないが、中三の教科書(296ページ)の中で、日中戦争から第二次世界大戦終了までの記述は約20ページにわたって学習していることになる。決して1ページあたりの文字数は多くはないものの、学習内容は日本のそれに比べると多い。日本に関する記述は決して親日的という内容のものではないと思われ

る。香港の中学校、高校を卒業し、日本の大学を卒業した人にお聞きしたところ、第二次世界大戦における日本の取った行為は確かに悪いと習ってはいるが、世界情勢から見たとき、やむをえなかったことであり、当時の香港が日本に対抗する力を持っていなかったことも大きな要因であると習ったそうだ。香港の人々の多くが、過去のことと気持ちを切り替えていること、現在の日本人がとても好意的であることが香港における今日の親日的な雰囲気を作っていると思われる。ただ、日本兵に残酷なことをされた人の中には、心を閉ざしている人もいることは事実であると話してくれた。

多くの日本企業が進出していることと、海外旅行者に人気があるということで、香港では日本人をよく見かける。日本人に人気のあるフラットもあり（一般的に家賃が高い）、そのようなフラットでは小学生の通学時間では日本人の保護者と子どもたちでゴッタがえすほどだそうだ。

香港にいとあらゆる国のレストランがあり国際都市だと感じるが、和風レストランも例外ではなく多数存在する。日本人が経営するレストランのほか、日本風レストランと呼ばれる香港人が経営するレストランもあり、和食は香港の人々にも人気があるようである。

香港を縦横無尽に走るミニバスやタクシーのほとんどが日本車であることはもちろん、自家用車は高級車を好む香港では、日本車の普及はとて多い。



現地校中学3年で使用している歴史の教科書



現地校中学3年生の教科書の記述の一部

盧溝橋事件をはじめとし、1938年10月武漢との戦争まで、日本は上海に向け攻めていった。当時日本は「3ヶ月以内に中国を支配する」と言っていたが中国は耐えた。その年、日本は南京を攻め、三十万人の人を殺した。これを「南京大虐殺」と言う。日本はこれで中国があきらめると考えていたが、逆に中国を怒らせ、最後まで闘うこととなたと記されている。

8 . 香港での生活

香港は日本との時差1時間。成田空港から4時間ほどと近いところにある。土地が狭いことから高層ビルが多く、多くの人はフラットと呼ばれるマンションに住むことになる。交通の便がとてもよいことと、ミニバスや車の運転が荒いことなどから、派遣教員は車の運転は許可されていない。普段の生活は、「そごう」や「ユ

ニー」などの日本系デパートがあり、当然日本より品薄ではあるが日本の食品や製品を手に入れることはできる。ただし、日本製品は日本で購入する金額の1.5倍から2倍になる。生活に慣れてくると、現地のスーパーや街市と呼ばれる市場で現地の物を安く購入することができるようになる。店の中には交渉次第ではどんどん値引きをしてくれる所もあり、それを楽しむこともできる。前にも触れたが、土地が狭いことにより不動産に関係のあるものは日本では考えられないほど金額が高いが、それ以外は比較的良心的である。

普段の生活では仕事で必要な人は別として、日本人で広東語を流暢に話す人は少ない。香港でしか通用しない広東語を覚えてもメリットが少ないと感じているのだろう。英語が話せれば、現地系の古い商店以外では支障はないのである。私のように英語が決して堪能でなくても、日本人は容姿でわかるようで、我慢強く、言い終わるまで待ってくれる。日本人から見ると、香港人の話す広東語は早くそして大きな声でしゃべるのでせっかちで、まるで喧嘩をしているのではないかと思ってしまうが、決してそうではないのである。ちなみに、香港人は10分や20分の遅れは全く気にしない、ある意味暢気で小さいことは気にしない気質のようだ。

私生活では学校の関係者以外との付き合いも積極的に行った。休日には日本人倶楽部で知り合った方々と飲茶を楽しんだり、北海道人会の催し物に参加したり（会員は100名を超える。ジンギスカンパーティーなど年に数回の催し物を企画）、英語の家庭教師を雇い、英語を習う以外に食事に出かけたり、我が家でホームパーティーを開催したりと楽しい思い出がいっぱいである。

9 . 最後に...

初めての海外暮らし。着任した頃は不安で一杯の生活だった。しかし、素直で向上心の高い

子ども達、日本各地から集まったやる気があり、豊富な実践をお持ちの先生方との学校生活は活気があり、勉強させられる毎日であった。常に、生徒と共に成長をすることのできる日々を送らせてもらったととても感謝している。帰国することが決まった際、生徒たちにも、保護者の方々にも、そして学校関係者にもとてもよくしていただいた。3年間という短い期間での勤務ではあっても、狭い日本人社会、密接な関わりを持つことができたからであろうと感じている。

日本を離れ海外で暮らすということは特別なことなのかもしれない。しかし同じ中学生が世界に視野を向けている。世界のどこにしようとも世界に目を向かせることはできるはず。環境の違いだけで片づけたくはないと、帰国後に考えている。学級での取り組みや、授業の中で、世界に目を向ける生徒を一人でも多く育てていきたいと考えている。

2004年4月香港日本人学校1年3組

